

平成 29 年 9 月 26 日
大学図書館と国立情報学研究所との
連携・協力推進会議
SCOAP³タスクフォース

SCOAP³タスクフォースの設置及び活動状況について

1. 設置経緯

2014 年に開始された SCOAP³はフェーズ1期間（2014-2016）が終了し、現在フェーズ2期間（2017-2019）中であるが、2018 年よりアメリカ物理学会（American Physical Society : APS）が SCOAP³に加わることが 4 月末に決まった。これにより APS 刊行の 3 誌（Physical Review C、Physical Review D、Physical Review Letters）に掲載された高エネルギー物理学分野の学術論文は 2018 年 1 月からオープンアクセスとなり、同分野における約 90%の論文の OA 化が実現する。そこで、日本の大学図書館における具体的な対応を検討するために、フェーズ1、そしてフェーズ2準備時と同様にアドホックなタスクフォースを設置することとし、メール審議により、平成 29 年 6 月 5 日に設置が承認された。

2. APS 参加に係る課題

SCOAP³は、大学図書館等が対象雑誌の購読料として支払っていた金額を出版料（APC）に振り替えることで OA を実現するものである。各国に期待される拠出額は、対象雑誌に掲載された高エネルギー物理学分野の論文数に基づき算定されている。フェーズ1において、世界の論文数の 7.1%のシェアを占める日本には、390,500 ユーロの拠出が求められていたが、実拠出額はそれを大幅に下回った。当初想定ほど参加館が増えなかった要因の一つとして、2013 年に APS が SCOAP³から離脱したことが挙げられる。

2018 年から APS 3 誌が SCOAP³対象雑誌に加わるにあたり、新規の参加対象となる大学が追加になるとともに、大学あたりの拠出金額も増額となることが予測される。そこで改めて大学が拠出する金額を、APS と調整しつつ算定する必要がある。

なお、APS 3 誌（パッケージ契約または個別契約）の 2018 年購読額については上記の拠出額に応じて減額される予定である。

3. ミッション

SCOAP³参加機関と拠出金額（機関別および日本全体）の確認が喫緊の課題である。そのためには前提として拠出金額の算定方法を定めなければならない。

フェーズ2の参加機関に対する拠出継続の依頼に加え、未参加の機関に対する参加依頼を行い、各機関の参加可否の意向と拠出金額を確認する。その企画と実務を担当する。

4. 任期

平成 30 年 3 月 30 日（金）までとする。

5. 開催回数等

回数：3回程度 / 時間：各回2時間（予定）

※上記の他、メーリングリストでの意見交換を行う。

6. メンバー

主査：細川 聖二（東京大学附属図書館 情報管理課長）

新見 槇子（東京大学附属図書館 情報管理課 資料契約係）

砂押 久雄（東京工業大学研究推進部情報図書館課 情報管理グループ長）

山本 一騎（横浜市立大学学務・教務部学術情報課 学術情報担当）

笹渕 洋子（早稲田大学図書館 調査役（電子資料担当））

山形 知実（国立情報学研究所 図書館・連携協力室員（JUSTICE 事務局））

事務局：国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課

吉田 幸苗（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 副課長）

服部 綾乃（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 支援チーム係長）

7. タスクフォースの活動状況

平成29年7月4日	第1回会合 ・今後の進め方について協議 ・7月中に、国公立大学図書館協力委員会を通じて各協（議）会会員館へ、SCOAP ³ の状況の周知と参加を呼びかける旨の文書を発送 ・SCOAP ³ への参加意向調査を実施予定
平成29年9月7日	APS 意見交換

（参考）平成28年度フェーズ2参加意向調査回答状況（3/30 現在）

（1）概要

各大学図書館のフェーズ2への参加意思の有無、参加する場合の拠出可能額を調査。

（2）回答状況

参加	40機関（うち、フェーズ1からの継続参加31機関）
不参加	46機関（うち、フェーズ1参加機関3機関）

（3）概況

拠出については、対象雑誌の購読実績を有する大部分の大規模大学図書館が参加の意向を示しており、大学図書館としては、最大限の努力を行っていると言える。